

論文の要旨

論文題目 日本語教育プログラム評価に関する研究
氏名 札野 寛子
学位 博士(学術)
授与年月日 平成 17 年 7 月 15 日

昨今日本でも、行政評価や大学評価など、社会的責任を担う活動全体に対する「評価」の必要性が認識されつつある。この種の評価は「プログラム評価」と呼ばれるもので、活動全体を体系的に検証し、その価値や功績を見定める取組みである。プログラム評価の利点は、活動内容や実施方法を改善するための情報を入手できることと、プログラムの成果を公に説明可能な形にできることである。

しかし日本語教育界では、その活動がさまざまな形で社会的な使命を持つものでありながら、上述のようなプログラム評価の意義が十分に認識されていない。今後も日本語教育の存在価値の認識を広め、社会に受け入れられる形で発展を続けるために、プログラム評価は日本語教育関係者が早急に取り組むべき課題である。

そこで本研究では、プログラム評価とは何かについての理解を深めるために、以下の3点を研究の目的と定める。

1. プログラム評価の基本的な概要を明らかにする。
2. 日本語教育現場に即した具体的なプログラム評価像と実際の実施過程を描き出す。
3. 日本語教育で評価の実践を進める上での課題を明らかにし、解決のための方策を考察する。

これらの研究目的のもと、本研究では各章で以下のようなことがらを論じていく。

「2章 プログラム評価とは何か」では、プログラム評価とはどのようなものか、歴史的側面および実践的側面から、先行研究をもとに探求する。2-1節では、プログラムおよびプログラム評価とは何かを定義する。2-2節では、歴史的な発展経緯をたどり、プログラム評価研究の背景を明らかにする。2-3節では、同じく歴史的側面から、これまでに生み出されたさまざまな評価に対するアプローチと、その代表的なモデルを紹介する。それを通して、プログラム評価研究の視野が拡大されていくようすを描き出す。続いて、2-4節では、プログラム評価を構成するさまざまな構成要素に注目し、プログラム評価の基本的な枠組みを実践的側面から検討する。そして、2-5節で具体的な評価作業の実施手順を説明する。ここでは「評価計画・準備段階」で利用可能な「12ステップ」を提言する。

次の「3章 外国語教育におけるプログラム評価の動向」では、2章の歴史的発展経緯を踏まえて、外国語教育分野でのプログラム評価研究の変遷と現状を論じていく。外国語教育分野でのプログラム評価研究は、1960年代～80年代前半と1980年代後半以降のふたつ

の時期に分けられる。それぞれの時期の代表的な評価例を挙げて、評価研究の動向を明らかにする。そして、1990年以降に報告された実際の評価例2例を概観し、現代の外国語教育研究でのプログラム評価の特徴を考察する。

「4章 日本語教育でのプログラム評価像」では、3章で述べた外国語教育分野での評価研究の現状を踏まえて、日本語教育プログラムを対象とした評価のイメージを描き出す。ここでは、評価担当者、利害関係者、評価目標/評価課題、評価の方法の具体的な例を検討する。

「5章 日本語教育でのプログラム評価事例研究」では、筆者が行った夏季集中プログラムでの評価を事例として取り上げて、日本語教育プログラムでの評価の過程を描写する(5-1節～5-4節)。この過程では、2章で提言する「12ステップ」に則った具体的な計画・準備作業のようすや、効率的な作業を進めるために有用な評価課題マトリクス、留学生自身が各自の日本語能力や日本文化・社会理解能力の向上の度合いを判定する自己評価票の例を紹介する。また、5-5節および5-6節では、参考として、長期的な視点から対象プログラムの成果を振り返るために実施した、過去のプログラム参加者への追跡調査と、留学生送り出し協定校側の担当者へのアンケート調査の概要も報告する。5-7節では、これらの評価結果をまとめた報告書の内容を取り上げる。次の5-8節では、今回の評価事例について、2種類の方法でメタ評価(評価の評価)を行う。そして、5-9節で、この評価事例を振り返り、どのような成果と問題点があったかを考察する。

そして「6章 考察：日本語教育でのプログラム評価実践の課題」では、5章で明らかになった評価実践の上での問題点などを踏まえて、1)日本語教育におけるプログラム評価へのアプローチ、2)プログラム評価作業の進め方、3)プログラム評価促進のための方策という3つの観点から、8つの課題について、その解決への方策を考察する。

「7章 結論」では、本研究で論じたことがらを総括する。そして、日本語教育分野でプログラム評価を実践する効用とは何か、また評価実践へ向けて何から始めていけばよいかについて、筆者の考えを述べて本研究を締めくくる。